

国語科学習指導案

学 級 : 1年1組 33人
場 所 : 1年1組 教室
指導者 : 教諭 齋藤 華代

1 単元名

文章を目的に応じて要約し、自分の考えをもつ
～「不利益」という考え方について、根拠を明確にしながら意見を交流しよう～
(教材名 『「不便」の価値を見つめ直す』 川上 浩司)

2 単元の目標

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
[知識及び技能] 情報(2)ア
- (2) 目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。
[思考力、判断力、表現力等] 読むこと C(1)ウ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。
[思考力、判断力、表現力等] 読むこと C(1)オ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

【本単元における言語活動】

説明的文章を読み、理解したことや考えたことを文章にまとめる活動

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	① 「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。	① 学習課題に沿って、進んで文章を読み、情報と情報との関係に注目して要約し、自分の考えを確かなものに行いながら、筆者の主張に対する自分の意見を積極的に交流している。

4 指導と評価の計画 (全5時間)

次	時間	学習活動	必要性	自律性	関係性	有用性	評価規準・評価方法等
1	1	1 「不便」に対する自分の考えを書く。 ・ 日常生活で感じる不便とその理由。 ・ 「不便がいい」という意見に対する自分の考え。 2 単元の目標と課題を設定し、学習の見通しをもつ。 【単元の目標】 文章を目的に応じて要約し、自分の考えをもつ			○		
			○		○	○	

	<p>〔確認事項〕</p> <p>① 要約の定義 内容を目的に応じて短くまとめること。</p> <p>② 目的意識 本文を読んだことのない人に、二百字という条件で内容を理解させ、その上で自分の意見も理解してもらう。</p> <p>③ 要約の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要旨は必ず取り入れる。 ・ 文章全体の構成に着目して、段落の要点をつなげる。 <p>【生徒の疑問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことに注目すれば要約できるかな。 ・ 内容をしっかり捉える必要があるな。 <p>3 本文を読み、大まかな内容と段落構成を捉える。</p> <p>2 4 筆者の述べている「不便」と「不便益」の定義を捉え、読みの共通基盤を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不便：手間がかかったり、頭を使って考えなければならなかったりすること。(6段落) ・ 不便益：不便だからこそ得られるよさ(5段落)、言葉の意味(益⇄害) ・ 筆者の主張：「不便益」は日常生活にも生きる発想であり、新たな気付きや楽しみが隠されている。 <p>5 単元の学習課題を確認し、「わたしの学習課題」を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発問：筆者が考える「不便の価値」と自分の考えを比較してみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【単元の学習課題】 「不便益」という考え方について、根拠を明確にしながらい見を交流しよう。</p> </div> <p>「わたしの学習課題」設定例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の考え方を捉えて、自分なりの意見を述べられるようにしたい。 ・ 根拠となる具体例としてふさわしいものはどんなものだろう。 <p>2 6 「わたしの学習課題」を追究する。</p> <p>(1) 四つの要約の方法の特徴や活用方法について理解した上で、コースを選択する。</p> <p>【コース】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 箇条書きコース ② 要約マッピングコース ③ マッピング(図式化)コース ④ 段落構成図コース 					<p>〔知識・技能〕① ワークシート、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の主張の前提となる「不便」と「不便益」の定義が書かれている部分を見つけ、結論部分から、筆者の主張を読み取っている。
--	---	--	--	--	--	---

3 本 時	4	<p>(2) それぞれ選択した方法で内容を整理し、要約に必要な情報は何か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発問：二百字の要約で内容を理解させるためには、何が必要か。 <p>(3) 要約を書き、筆者の主張を正確に捉えられているか確認する。 [観点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「不便益」の定義 具体例の紹介 筆者の主張 <p>(4) 自分の選択した要約の方法が、目的に即した方法だったか、また、四つの要約の方法が、今後どのような学習に生かせそうかを振り返る。</p>	◎	◎	○	<p>[思考・判断・表現] ① ワークシート、観察、リフレクションシート、ロイロノート</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択した要約の方法を生かして内容を整理し、制限字数を基に必要な情報に着目して要約している。 <p>[主体的に学習に取り組む態度] 観察、ワークシート、リフレクションシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 要約までの流れと要約文を交流し、文章を知らない人が読んでも正しく理解できるかを相互評価した上で、自分の書いた要約を見直している。 															
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="3">段落構成</th> </tr> <tr> <td>序論</td> <td>①～④</td> <td>話題提示</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本論</td> <td>⑤～⑦</td> <td>「不便」の定義付け</td> </tr> <tr> <td>⑧～⑪</td> <td>「不便益」の事例の紹介 ・ 出会いや発見 ・ 身体能力の向上 ・ 意欲や技術力の向上</td> </tr> <tr> <td>⑫～⑮</td> <td>「不便益」のまとめ</td> </tr> <tr> <td>結論</td> <td>⑯</td> <td>筆者の主張</td> </tr> </table>		段落構成			序論	①～④	話題提示	本論	⑤～⑦	「不便」の定義付け	⑧～⑪	「不便益」の事例の紹介 ・ 出会いや発見 ・ 身体能力の向上 ・ 意欲や技術力の向上	⑫～⑮	「不便益」のまとめ	結論	⑯	筆者の主張	<p>【要約例】二百字要約</p> <p>不便だからこそ得られる良さを「不便益」という。ここでの「不便」とは、手間がかかったり、頭を使って考えなければならなかったりすることである。例えば、タクシーと徒歩では徒歩の方が労力はかかるが、途中の道のりでの出会いや発見の機会が増えるという良さがある。これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものである。「不便」だと思ってさけてきた物事の中に、実は、新しい気付きや楽しみが隠されているかもしれない。</p>		
段落構成																					
序論	①～④	話題提示																			
本論	⑤～⑦	「不便」の定義付け																			
	⑧～⑪	「不便益」の事例の紹介 ・ 出会いや発見 ・ 身体能力の向上 ・ 意欲や技術力の向上																			
	⑫～⑮	「不便益」のまとめ																			
結論	⑯	筆者の主張																			
	5	<p>(5) 筆者の考えに対する自分の立場を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 納得できるか、できないか 特に、筆者の考え方のどの部分に対して意見を述べたいか。 	◎	◎																	
3	5	<p>(6) 筆者の考え方に対する自分の意見について、根拠を明確にしながらまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 助言：筆者の考えと自分の意見との関連性を明確にするために、必要に応じて要約の内容を修正しよう。 条件：自分の経験や知識、見聞を根拠としてまとめる。 	◎	◎		<p>[思考・判断・表現] ② ワークシート、観察、リフレクションシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもち、根拠を基にまとめていくことで、自分の意見を確かなものに 															

		<p>【発想を広げるヒントカード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「不利益」に関する情報の紹介 ・ 「便利」について書いている記事の紹介 ・ 筆者の「不利益原理カード」の紹介 					している。
		<p>7 筆者の考え方に対する自分の考えを交流し合い、筆者の主張について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の導入で考えた「不便だと思うこと」「筆者の考え方に対する意見」と比較する。 <p>8 単元の振り返りを通して、どんな学習の仕方が有効だったのかを交流する。</p>	○			◎	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 観察、リフレクションシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の考え方に対する互いの意見を積極的に交流している。

5 本時の実際（3／5）

(1) 学習目標

- 各自で選択した要約の方法を用いて本文の内容を整理し、本文を読んだことのない人に伝わる二百字要約文にするにはどのような情報が必要かを考える。〔思考力、判断力、表現力等〕読むことC(1)ウ

(2) 研究の取組

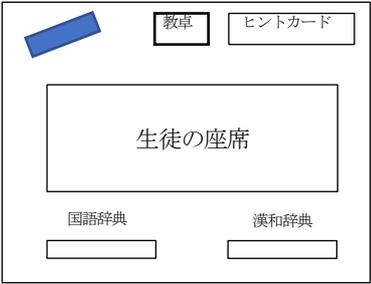
生徒が自らの学習のエージェントとなる指導の工夫

要約とは、目的や必要に応じて文章の内容を短くまとめることである。これまでは教師主導になりがちであった内容の把握から要約までの学びの過程について、今回は、生徒それぞれが課題意識をもち、「自律性」を発揮しながら学ぶ姿を目指す。

その手立てとして、まずは、四種類の「要約の方法」を提示し、生徒にそれらの特徴を理解させた上で、自分の課題解決に役立つようなものを選択させる。また、個々のつまづきに対応できるように、教師は、ファシリテーターとなり、資料スペースを準備したり、必要に応じて学び合いをしたりできるような学習環境を設定する。

(3) 展開

過程	時間	形態	学習活動	教師の手立て	「自律性」が示す十個の姿
導入	2分	一斉・班	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ。</p> <p>【目的】 本文を読んだことのない人へ、二百字の要約文で内容を理解してもらおう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ リフレクションシートを基に、「わたしの学習課題」とその解決方法を確認させる。 ・ 目的を確認し、本時のゴールイメージをもたせる。 ・ 要約の方法について再度確認し、要約をするために内容を整理していく時間であることを伝え、整理する段階から、要約のイメージをもちながらまとめられるようにする。 	<p>私は「考える」 最終的に要約文にするのだから、それをイメージしながらまとめていこう。</p>
			<p>内容を整理しながら、目的に合った要約文にするために必要な情報を考えよう。</p>		
展開	2分	一斉・班	<p>2 選択したコースとその理由について聞き合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰がどのコースを選択したのかを互いに把握することで、困ったときに学び合いができるようにする。 	

展開	3分	一斉・班	<p>3 課題追究の手順を確認する。</p> <p>【手順】</p> <p>① 選択した方法で内容を整理する。</p> <p>② 要約に必要な情報は何か、考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のどの部分に注目したか、線を引きながら課題追究に取り組みさせる。 教室に資料スペースを準備し、課題の進捗状況に応じて活用できることを知らせる。 まずは個人で考えさせるが、困ったときには、先生に相談したり、聞き合いのために席を離れたりしても構わないことを知らせる。 聞き合いをする際は、教科書のどの部分に注目したかについて、理由も含めて伝えるよう助言する。 要約に必要ないと考える部分については、内容を整理する段階で省いてもよいことを伝える。 	<p>私は「計画する」</p> <p>分からなくなったら、ヒントカードを見に行こう。困った時には、同じコースのAさんに聞きに行こう。○分までに済ませよう。</p>
	30分	個・協働	<p>4 課題追究をする。</p> <p>【資料スペースに置くもの】</p> <p><input type="radio"/> 国語辞典・漢和辞典</p> <p><input type="radio"/> ヒントカード</p> <p>【教室】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 大まかな内容を捉えきれていない生徒が多く見られる場合には、ポイントのみ全体で確認する。 つまづいている生徒へは、教科書P184「学習の窓」や、要約モデルシート、既習の内容を参考にしながらまとめていくよう助言する。 目的を意識しながら、内容の取捨選択を検討するよう助言する。 早く終わった生徒には、二百字要約をさせ、気付いたことを班での聞き合いに生かせるようにする。 	<p>私は「もがく」</p> <p>本論は三つに分けられるとして、どんな言葉でまとめていけばいいかな。ヒントカードを参考にしよう。</p>
	8分	班	<p>5 要約に必要な情報は何か、話し合う。</p> <p>[取り入れるべき内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「不便益」の定義 「不便」の定義 具体例の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 異なるコースを選んだ生徒同士で班を作り、互いの読み取った内容を確認し合うことで、内容を正確に捉えられるようにする。 目的に合った要約にするために、どのような順序で、どの情報を取り入れるべきかについて話し合わせる。 	<p>私は「協力する」</p> <p>事例は入れなくても伝わるのかな？入れるとしたら全部かな。一つ選ぶかな。みんなの考えの理由を聞き合って考えよう。</p>
終末	5分	個	<p>6 本時の学びを振り返り、次時以降どのように学習を進めるのか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時で学んだことから大事だと思うこと、学習の仕方でも有効だったことをリフレクションシートに記入させる。 	<p>私は「振り返る」</p> <p>要約するときには、目的や字数に合わせて、情報を選ぶ必要があるな。</p>

				<ul style="list-style-type: none"> 要約をする際のポイントや考え方について触れている生徒がいれば、発表させて全体で共有できるようにする。 	
--	--	--	--	--	--

【本時のゴールの姿】

<p>[捉えるべき内容]</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="3">段落構成</th> </tr> <tr> <td style="width: 15%;">序論</td> <td style="width: 15%;">①～④</td> <td style="width: 70%;">話題提示</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本論</td> <td>⑤～⑦</td> <td>「不便」の定義付け</td> </tr> <tr> <td>⑧～⑪</td> <td>「不便」の事例の紹介 ・ 出合いや発見 ・ 身体能力の向上 ・ 意欲や技術力の向上</td> </tr> <tr> <td>⑫～⑮</td> <td>「不便」のまとめ</td> </tr> <tr> <td>結論</td> <td>⑯</td> <td>筆者の主張</td> </tr> </table>	段落構成			序論	①～④	話題提示	本論	⑤～⑦	「不便」の定義付け	⑧～⑪	「不便」の事例の紹介 ・ 出合いや発見 ・ 身体能力の向上 ・ 意欲や技術力の向上	⑫～⑮	「不便」のまとめ	結論	⑯	筆者の主張	<p>[要約に取り入れるべき内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「不便」の定義 具体例の紹介 <ul style="list-style-type: none"> * 全ては入らないため、選択するか、短くまとめる必要がある。 要旨（筆者の主張）→必須
段落構成																	
序論	①～④	話題提示															
本論	⑤～⑦	「不便」の定義付け															
	⑧～⑪	「不便」の事例の紹介 ・ 出合いや発見 ・ 身体能力の向上 ・ 意欲や技術力の向上															
	⑫～⑮	「不便」のまとめ															
結論	⑯	筆者の主張															

6 板書計画

<p>1 見通しをもつ</p> <p>2 課題を追究する</p> <p>3 聞き合いをする</p> <p>4 振り返りをする</p>	<p>【約束事】</p> <p>① 間違ってもいい。自分なりに最後まで。</p> <p>② 離席・対話・情報収集大歓迎。</p> <p>↓ヒントカード、資料、過去の学習内容、友達、先生</p> <p>③ 本文に線を引きながらまとめよう。</p> <p>④ 友達に教える時は、「本文」を指し示そう。</p> <p>⑤ 要約に不要だと判断した部分は省いてよい。</p>	<p>【課題追究の手順】</p> <p>① 選択した方法で内容を整理する。</p> <p>② 要約に必要な情報を考える。</p>	<p>【コース】</p> <p>① 簡条書き</p> <p>② 要約マッピング</p> <p>③ マッピング（図式化）</p> <p>④ 段落構成図</p>	<p>文章を目的に応じて要約し、自分の考えをもつ</p> <p>「不便」という考え方について、根拠を明確にしながら意見を交流しよう</p>
<p>【目的】</p> <p>内容を整理しながら、目的にあった要約文にするために必要な情報を考えよう。</p> <p>本文を読んだことのない人に、二百字の要約で内容を理解してもらおう。</p>				
<p>「不便」の価値を見つめ直す</p>				

7 単元のゴールの姿

- 【評価の観点】① 文章の内容と筆者の考え方が分かる要約 ② 自分の立場
③ 根拠となる具体例（経験・知識・見聞） ④ ①と③をつなぐ理由付け

(1) 筆者の考え方に「納得できない」場合 選んだ観点：出会いや発見の機会が増えることについて

【要約】「不便益」の定義・「不便益」の具体例・筆者の主張
不便だからこそ得られる良さを「不便益」という。ここでの「不便」とは、手間がかかったり、頭を使って考えなければならなかったりすることである。例えば、工場での生産方式だ。分業制のライン生産方式に対し、セル生産方式といって一人で一つの製品を丸ごと組み立てる方法がある。作業者の負担が重くなって不便だが、自分なりに工夫できるので意欲の向上につながる良さがある。これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものである。「不便」だと思ってさけてきた物事の中に、実は、新しい気付きや楽しみが隠されているかもしれない。

修正
例えば、タクシーと徒歩では徒歩の方が労力はかかるが、途中の道のりでの出会いや発見の機会が増えるという良さがある。

立場
納得できる ・ **納得できない** ・ どちらとも言えない

根拠となる具体例
観点：「出会いや発見の機会が増えること」について
旅行先でタクシーに乗ったとき、パンフレットには載っていないおすすめの観光地を教えてもらった。

理由付け
便利なタクシーを利用することでも、新しい出会いや発見の機会を増やすことはできる。

【ポイント】
○ 要約文の訂正をしやすいようワークシートに余白を作る。
○ 部分修正で済むようにする。

(2) 筆者の考え方に「納得できる」場合 1 選んだ観点：意欲の向上について

【要約】「不便益」の定義・「不便益」の具体例・筆者の主張
不便だからこそ得られる良さを「不便益」という。ここでの「不便」とは、手間がかかったり、頭を使って考えなければならなかったりすることである。例えば、工場での生産方式だ。分業制のライン生産方式に対し、セル生産方式といって一人で一つの製品を丸ごと組み立てる方法がある。作業者の負担が重くなって不便だが、自分なりに工夫できるので**意欲の向上**につながる良さがある。これらの「不便益」は、「不便」だからこそ得られるものである。「不便」だと思ってさけてきた物事の中に、実は、新しい気付きや楽しみが隠されているかもしれない。

立場
納得できる ・ 納得できない ・ どちらとも言えない

根拠となる具体例
宿泊学習での野外炊飯
火をおこすところからで手間がかかった。不便なことが多い分、たくさん工夫したり協力したりしないといけなかった。しかし、いろいろと相談したり工夫したりして、意欲的にオリジナルのカレーを作ることができた。

理由付け
自宅でカレーを作るときは、炊飯器やガスコンロといった便利なものがある。でも、野外炊飯のときのような意欲はわいてこない。
→不便益は意欲の向上につながる！

【ポイント】
○ できるだけ実体験で書かせる。
○ 伝えたい出来事を「要約」してまとめる。←身に付けたスキルの活用

(3) 筆者の考え方に「納得できる」場合2 選んだ観点：教科書の事例以外（筆者が紹介したその他の事例）

【要約】「不利益」の定義・「不利益」の具体例・筆者の主張

不便だからこそ得られる良さを「不利益」という。ここでの「不便」とは、手間がかかったり、頭を使って考えなければならなかったりすることである。例えば、工場での生産方式だ。分業制のライン生産方式に対し、セル生産方式といって一人で一つの製品を丸ごと組み立てる方法がある。作業者の負担が重くなって不便だが、自分なりに工夫できるので意欲の向上につながる良さがある。これらの「不利益」は、「不便」だからこそ得られるものである。「不便」だと思ってさけてきた物事の中に、実は、新しい気付きや楽しみが隠されているかもしれない。

立場

納得できる ・ 納得できない ・ どちらとも言えない

根拠となる具体例

紙の国語辞典について
インターネットで何でも調べられるから、紙の国語辞典は必要ないと思う人もいるかもしれない。しかし、紙の辞書をパラパラ開くと、調べていた言葉以外の言葉にも出会うことができ、得をした気分になったことがある。

理由付け

紙の辞典をひくのは、面倒くさくて不便な面はあるが、その手間のおかげで、他の言葉について知ることができる良さがある。

→不利益には、新しい気付きや楽しみにつながる！

【ポイント】

- インターネットを活用して他の事例を調べた場合も、内容を「要約」してまとめる。